

第 62 期(平成 23 年度)事業の概況

1. 一般社団法人への移行

平成 22 年 9 月、公益法人改革に対応し、実質公益型の「一般社団法人」(非営利性が徹底された法人)への移行申請を行い、同年 12 月 27 日付で内閣総理大臣より認可を受け、平成 23 年 1 月 4 日に設立登記を行った。

2. 会 員

会員数は、平成 23 年 12 月 31 日現在、名誉会員 6、個人正会員 1,966、団体正会員 393(436 口)、学生会員 271 の計 2,636 であった。理事会・会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 118、団体正会員 7、学生会員 127 の新入会を得たものの、個人正会員 182、団体正会員 13、学生会員 119 の退会があり、前年同期に比べ計 62 が減少した。

3. 会 計

一般事業予算は、会費収入では平成 22 年度末の会員数と景気の動向による入金率を考慮し、かつ会員増強を推し進める方針で会員数 3%増としたが、対前年比では 280 万円減の予算をたてた。しかしながら、東日本大震災や景気の低迷もあり、予想以上に会員数が減少し、団体正会員会費、個人正会員会費とも予算に達しなかったが、学生会員会費は予算を達成した。

一般事業収入においても東日本大震災や景気の低迷を受け、講演大会、セミナー、会誌収入とも予算に達しなかった。特に、展示会会計では、東日本大震災および福島第一原発の事故の影響により、出展小間数が予定に達しなかったことから、1,150 万円の赤字となり、累積赤字が 2,142 万円となった。このような状況下で、一般事業支出は、事業費、事務費とも節約に努めたが、結果として特定資産 900 万円を繰り入れて、当期収支差金はマイナス 963,587 円となった。これにより前期の繰越金マイナス 3,989,408 円と合計してマイナス 4,952,995 円が次期繰越となった。支部会計、部会会計、展示会会計を連結した結果、協会全体の正味財産は 20,738,858 円となり、前期より 25,363,382 円減少した。

4. 講演大会等

第 123 回講演大会(関東学院大学六浦キャンパス)は、東日本大震災のため講演を中止したが、講演要旨集を既に公表済みのため、講演要旨集に記載した範囲で講演大会が成立した(発表件数 158 件)。第 124 回講演大会(名古屋大学東山キャンパス, 9 月 21 日~22 日)は、発表件数 176 件、参加登録者 510 名であり、武井記念講演会および特別講演として「がんばろう日本!がんばろう表面技術!」を開催し多数の参加者があった。なお、第 124 回講演大会においては、「第 13 回優秀講演賞」受賞者 3 名を選考し、第 125 回講演大会において授与する予定である。

5. 会 誌

12 テーマの小特集および特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 734 ページ、掲載論文は、研究論文 22 件・技術論文 7 件・ノート 2 件・速報論文 10 件であった。

また、J-Stage[科学技術情報発信・流通総合システム；(独)科学技術振興機構(JST)]には、平成23年(第62巻)6号まで掲載した。なお、JSTの「電子アーカイブ事業」によって、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」および「現場パンフレット(後改称：実務表面技術)」の創刊号から53巻12号迄が公開されている。

6. セミナー

東日本大震災の影響などから、実務的な内容(生産現場や品質管理などで活用できるもの)を取り上げるとの趣旨から、夏季実習セミナー(I)“めっきプロセスの基礎と評価実習”(東京理科大学野田キャンパス、8月1日～2日)、夏季実習セミナー(II)“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”(千葉工業大学津田沼キャンパス、8月4日～5日)、秋季実習セミナー“めっき液の現場管理技術”(千葉工業大学津田沼キャンパス、11月18日)を開催した。そのうち、夏季実習セミナー(II)は関東支部および材料機能ドライプロセス部会による企画・実行により開催した。景気低迷のなかで、参加者数の減少が懸念されたが、参加者の合計は123名であり、昨年より30名増員した。

7. SURTECH

“SURTECH 2011—表面技術総合展”(東京ビッグサイト、7月13日～15日)は、本会主催のもと、経済産業省の後援、材料技術研究協会・全国鍍金工業組合連合会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・(社)日本熱処理技術協会・(社)日本表面処理機材工業会の6団体の特別協力により、マイクロマシン/MEMS展・ROBOTEC展と同時開催した。出展社(機関)は東日本大震災の影響などから60社86小間となり、昨年より大幅に減少した。しかしながら、新たに企画した特別企画展示「先端めっき技術とその新展開」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専業社の出展があったこと、さらに「めっき実演コーナー」との相乗効果により多くの参観者を集めた。全体の参加者は12,861名であった。

また、SURTECH 2011の開催結果から、次年度以降のSURTECHの開催について、“METEC-表面処理材料総合展”の主催団体(日本鍍金材料協同組合)より提案された“SURTECH”と“METEC”との統合について、理事会・常務会にて検討が行われた。その結果、新たに“SURTECH 2012-表面技術要素展”として、主催：本会・日本鍍金材料協同組合・(株)ICS コンベンションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会・(社)日本表面処理機材工業会、特別協力：材料技術研究協会・日本塗装機械工業会・日本塗装技術協会・(社)日本熱処理技術協会により、平成24年2月15日～17日の3日間、東京ビッグサイトにて“nano tech(国際ナノテクノロジー総合展)”など7つの展示会と同時開催することとなった。なお、SURTECH 2012の併催行事として、国際シンポジウム“表面技術の新しい潮流”を企画するとともに、準備を進めている。

8. 国際交流

平成24年11月14日～16日にイタリア/ミラノ工科大学にて開催されるINTERFINISH2012(第18回表面技術国際会議)への協力準備に入った。

9. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）の TC-107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内対応として、特別委員会の中に ISO 規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC107 日本委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、本委員会を中心として、ISO/TC107 23rd Plenary Meeting を平成 23 年 2 月 21 日～25 日に(財)大阪科学技術センターにて開催し、8 カ国から史上最多の 84 名の参加があり、無事盛会のうちに終了した。

10. JIS 規格検討専門委員会

特別委員会の中に JIS 規格検討専門委員会を置き、来年度以降の委託事業のテーマについて検討を進めた。

11. 表 彰

- (1) 協会賞 1 名、功績賞 2 名、論文賞 2 件、技術賞 1 件、進歩賞 2 名および技術功労賞（団体正会員会社の永年勤続技術功労者）6 名を表彰した。
- (2) 厚生労働省職業能力開発局長の指定団体として本会より推薦した、厚生労働大臣表彰「卓越した技能者の表彰制度」（通称：現代の名工）に 1 名が表彰された。また、歴代の本会推薦の卓越した技能者より、1 名が黄綬褒章を受賞した。

12. 表面処理団体協議会（表団協）

本会と全国鍍金工業組合連合会、(社)日本表面処理機材工業会の 3 団体で組織する表面処理団体協議会は、「表団協／産官学合同会議」を開催し、東日本大震災の教訓をもとに対応などについて検討した。また、11 月に第 22 回表団協セミナーを開催し、参加者は 70 名であった。

13. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、中部支部は第 124 回講演大会の成功に貢献した。

14. 部 会

本期に、活動している部会は以下のとおりである。

- ① ライトメタル表面技術部会
- ② めっき部会
- ③ 材料機能ドライプロセス部会
- ④ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑤ ウエットプロセス研究部会
- ⑥ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ⑦ 表面改質・硬化部会
- ⑧ 溶射・ライニング部会
- ⑨ 電鍍・金型の表面処理研究部会
- ⑩ 表協青年経営技術懇話会

- ⑪ 表面技術環境部会
- ⑫ カーボン・プラスチック表面技術部会
- ⑬ 表協エレクトロニクス部会
- ⑭ ナノテク部会
- ⑮ 将来めっき技術検討部会

15. 会員委員会

会員委員会は、会員の減少を食い止め新規会員の入会を促進するためにシニア会員の設置、会員のグローバル化（海外会員）、シニアの活躍の場と若手の取込みの場づくりの具体策などを検討した。

16. 将来計画委員会

将来計画委員会に「IT 化検討専門小委員会」を置き、会員管理システムおよび WEB サイトなどの検討を進めるとともに、独自サーバーを準備するなど IT 環境を整備した。

17. その他